

令和2年12月新見市議会定例会
日程第4（市長の行政報告について）

市長行政報告

前回の市議会定例会以降について、ご報告いたします。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてであります。

9月26日、市内において初の感染者が確認されました。翌27日に2例目、10月27日に3例目・4例目が確認され、現時点の感染者数は4人となっております。3例目・4例目が施設職員の方であったことを受け、感染の拡大防止と市民の不安を解消するため、本市独自でPCR検査を実施いたしました。結果として、県実施の134人、本市独自実施の82人全員の陰性が確認され、感染拡大の防止につながりました。

次に、新型コロナウイルス感染症に関する本市独自の支援についてであります。

企業・産業支援としましては、公共交通事業者を対象とした「公共交通事業者等緊急支援事業」を実施し、10月までに7社からの申請を受け付け、7百万円の支援金を交付して、事業を完了いたしました。

また、中小企業者等を対象とした「中小企業者等労働相談事業」「中小企業者等事業継続支援金」「融資利子補給金」「雇用安定助成金事業」「持続化応援給付金」、畜産農家を対象とした「肉用子牛生産緊急対策奨励金」、「肉用牛肥育経営安定緊急支援交付金」、森林所有者及び林業事業者を対象とした「木材搬出運搬事業支援金」「市場出荷手数料支援金」等により、支援を継続しております。特に「中小企業者等事業継続支援金」につきましては、農林業者を含む多くの事業者から想定を上回る申請を受け付けており、本定例会に、増額補正予算案を計上しているところであります。

また、市内飲食店での消費喚起を図るため、飲食料金などの割引を受けることができる「にーみん食ーポン」を発行しており、11月末時点で印刷版クーポンと電子版クーポン合わせて67,831件のご利用を確認しております。

生活支援としましては、全ての市民の皆さまに、地域内の消費拡大につながる地域商品券を一人当たり5,000円分給付しており、11月末時点で11,991世帯、27,508人に配付を完了しております。

子育て支援としましては、コロナ禍における出産に伴う経済的負担を軽減するため、国の特別定額給付金の対象とならなかった4月28日以降に出生したことも1人につき10万円の支援金を給付しており、11月末時点で60人分の給付を完了しております。

感染予防支援としましては、新型コロナウイルス感染症と同時流行が懸念されるインフルエンザを予防するため、これまで費用助成のなかった義務教育卒業後から64歳までの方が受けるインフルエンザ予防接種についても費用の一部

1,000円を助成しており、11月末時点で約3,000人にご利用いただいております。

続きまして、第3次新見市総合計画の施策展開分野の主な事項についてご報告いたします。

まず、「産業・経済」についてであります。

農畜産業の振興につきましては、コロナ禍にあって暗いニュースが取りざたされる中、JA晴れの国岡山新見統括本部阿新ぶどう部会は、今年度の販売目標である11億円（税抜き）を上回る販売額を達成されました。また、同新見花卉部会では、独自に育成したオリジナル品種である「新見プレミアムリンドウ」を市場に初出荷し高値で取引されるなど、明るいニュースも聞こえております。

林業の振興につきましては、新見産のスギ、ヒノキ、広葉樹を使用した木のおもちゃ「クミノ」が完成いたしました。ウッドスタート事業の一つとして、10月15日に新見保育所で贈呈式を行い、今年度中に、市内の13保育施設に贈る予定としております。

観光につきましては、それぞれの観光施設において、最大限、感染防止に努めながら、お客様の受け入れを行っておられます。また、この度、大佐山大日高原風の聖域施設オートキャンプ場にトレーラーハウスを3台整備いたしました。

次に、「健康・福祉」についてであります。

児童福祉につきましては、保育現場の保育教諭と新見公立大学・教育支援センターが連携し、乳幼児期から就学前までの一貫した指導内容を記した『新見市保育・教育カリキュラム』を策定いたしました。

次に、「教育・文化・スポーツ」についてであります。

完成間近の新たな学校給食センターにつきましては、児童・生徒、市民に親しまれる施設となるよう、市内の小学生に愛称を募集し、「にいみーる」と決定いたしました。令和3年4月に稼働予定となっております。

GIGAスクール構想の取組につきましては、校内通信ネットワーク整備工事に着手いたしました。これにより、中学校に続き全小学校にもWi-Fi環境が整備されることとなります。

ふるさとキャリア教育につきましては、小・中学校の教員によるカリキュラム作成部会を組織し、市内全体で小中一貫した指導内容を記した「新見市ふるさとキャリア教育カリキュラム」を策定いたしました。

新見美術館開館30周年記念展覧会につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの開催となりましたが、「はしもとみお 木彫り動物の世界」展には約8,200人、「現代日本画家が描く 万葉のこころ」展には約5,100人が来館されました。

次に、「安全・生活基盤」についてであります。

防災につきましては、これまでの災害の教訓を踏まえ、11月7日に新見南中学校体育館で本市と備北保健所新見支所や市内12の自主防災会が連携し、「新型コロナウイルス感染症に対応した避難所開設訓練」を実施いたしました。当日は「警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始」の発令を想定し、自主防災関係者の皆さまや市職員等合わせて約180人が参加して、避難所の開設・運営に重点を置いた訓練を行い、連携体制の強化や防災意識の高揚を図りました。

水道事業につきましては、10月28日に新見市水道事業運営審議会を開催し、令和元年度決算を元に収支予測との比較や経営指標による分析等により審議いたしました。

次に、「都市基盤・交通」についてであります。

新見駅周辺のまちづくりにつきましては、公募により決定した有限会社緑樹が、新見駅西エリアで進めております居住棟の起工式を、11月22日に執り行いました。本市としましては、同事業に関連する周辺道路や上下水道の整備を進めているところであります。

次に、「交流・コミュニティ」についてであります。

地域共生社会の構築につきましては、新見公立大学の四大化に必要な校舎機能と地域共生社会の実現に向けた拠点機能を備えた「地域共生推進センター」が完成し、10月11日、関係者により竣工式が執り行われました。施設内には、大学の講義室や実習室のほか、市民の皆さまの学習・交流・情報交換の場として、最大400人を収容する講堂やICT教室、コミュニケーションカフェなどを設けております。

外国人の皆さまへの支援につきましては、専用オペレーター通訳を利用した相談窓口を設置いたしました。これは、高梁川流域連携中枢都市圏事業により、倉敷市に設置されている通訳オペレーターとテレビ電話方式で繋がり、13カ国語で相談を受けることができるものであります。

地域コミュニティの再構築と持続可能な地域社会の構築につきましては、9月18日に大佐田治部地域で「田治部みらい会」が、9月25日に千屋地域で「未来へつなぐ千屋野の里」が設立されました。これにより、市内の地域運営組織は6団体となりました。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしました。